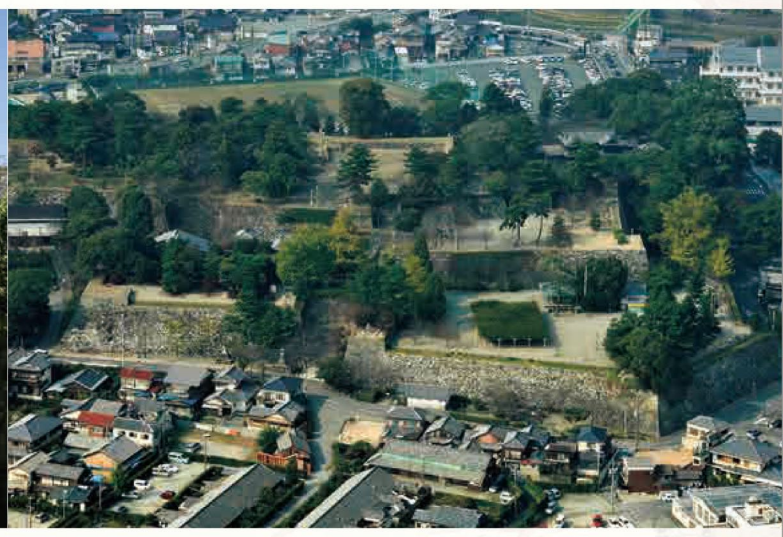
城跡から同心町へ―生垣の続く町並み

原田二郎旧宅

松阪市指定有形文化財（建造物）



歴史につちかわれた松阪

松阪市は三重県の中部に位置し、古くから軍事・交通上の重要な地にありました。十四世紀の南北朝時代には、南朝方の有力な出城が市内の各所に築かれ、たびたび南北両軍の激戦が展開されましたが、十五世紀になると伊勢国司・北畠家の支配下に置かれました。一五七〇年、北畠家臣の潮田長助は、松坂城跡（国史跡）がある丘陵地に初めて砦を築いたといわれています。

その後、北畠家が織田信長に滅ぼされると、やがて近江国（滋賀県）日野から蒲生氏郷が入封しました。一五八八年、氏郷は砦があった丘陵地に堅固な石垣と堀を巡らした本格的な城を築き、その周囲に新たに城下町を建設して、この地を「松坂」と命名しました。

城下町の町割りと松阪商人の台頭

蒲生氏郷は城の周囲に武士が住む「殿町」を置き、その外側に伊勢街道を引き入れて商人や職人を住まわせました。そして、楽市楽座などの積極的な商業振興策を行いました。氏郷の後は服部・古田と領主が替わり、一六一九年から紀州藩の領地になりました。殿町には役所や武家屋敷が置かれましたが、伊勢街道と和歌山街道沿いに商家が立ち並び、自由闊達な商人の町、宿場町として繁栄しました。

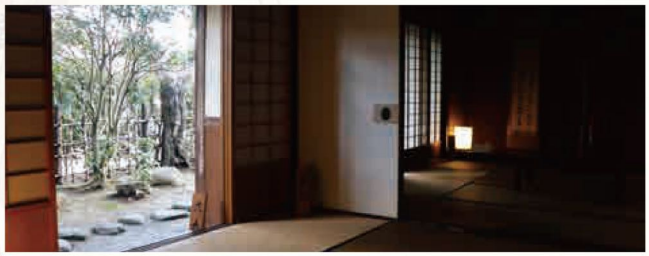
十七世紀以降、松阪商人は競って江戸や京都・大阪に出店を構え、出店で稼いだ財は松阪にもたらされて商都として発展しました。十八世紀後期の城下町人口は一万人余りですが、武士人口は他の城下町に比べて極めて少なく、一割にも満たないといわれてます。

原田邸と武家屋敷群の町並み

松坂城跡（国史跡）の東側には、城を警護する武士軍団が住んだ御城番屋敷（国重要文化財）や、同心という職名の役人たちが住んだ「同心町」が置かれました。

原田邸は十九世紀中期に建てられた小規模な武家屋敷ですが、二階部分は一八八二年に原田二郎が書斎として増築しています。この敷地と建物は、二〇〇九年に原田積善会から松阪市に寄贈されました。松阪市は有形文化財に指定して復元・整備を行い、二〇一二年から一般公開しています。

原田邸周辺には、今も十九世紀中期の武家屋敷が所々に残っています。家々の広さは一軒平均二百坪余りあり、家の周囲には生垣が巡らされています。原田邸から御城番屋敷、そして松坂城跡へと続く道を散策し、松阪特有の武家屋敷の町並みをお楽しみください。



実業家原田二郎と原田積善会

一八四九年、実業家で知られる原田二郎は、松坂町奉行所に勤める同心の家に生まれました。二十一歳から京都や東京で遊学の後二十七歳で大蔵省に就職し、三十一歳の若さで第七十四国立銀行（横浜銀行の前身）の頭取に就任しました。しかし、やがて体調を崩し、松阪に戻っています。

五十四歳の時、二郎は有名な政治家・井上馨に依頼され、大阪の鴻池銀行を再建しました。そして一九二〇年、全財産千二十万円（現在の約百五十億円）を投じて財団法人原田積善会を設立。以来、現在にいたるまで全国の社会公益事業に対して様々な助成活動を行っています。市内でも、初めての学校給食の実施、病院の建設、桜の植樹運動、大学生奨学金の支給などに助成されています。

在りし日の原田二郎　（大正13年 東京・麻布にて）

原田二郎旧宅

〒515-0073 松阪市殿町1290番地　0598-23-1656

【開館時間】
9:00～17:00（16:30までにご入館ください）
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

Google Map

【入館料】無料

【アクセス】
JR・近鉄松阪駅より徒歩 約15分
松阪駅より三交バス利用
「松阪中央病院行き」「嬉野一志町行き」
「小野行き」「市街地循環バス（鈴の音バス）」
～市役所前で下車し徒歩 約10分
伊勢自動車道松阪インターから車で 約10分
車は松阪市駐車場へ停めてください／駐車場より徒歩 約10分

HP

【お問い合わせ】
NPO法人 松阪歴史文化舎
http://matsusaka-rekibun.com/